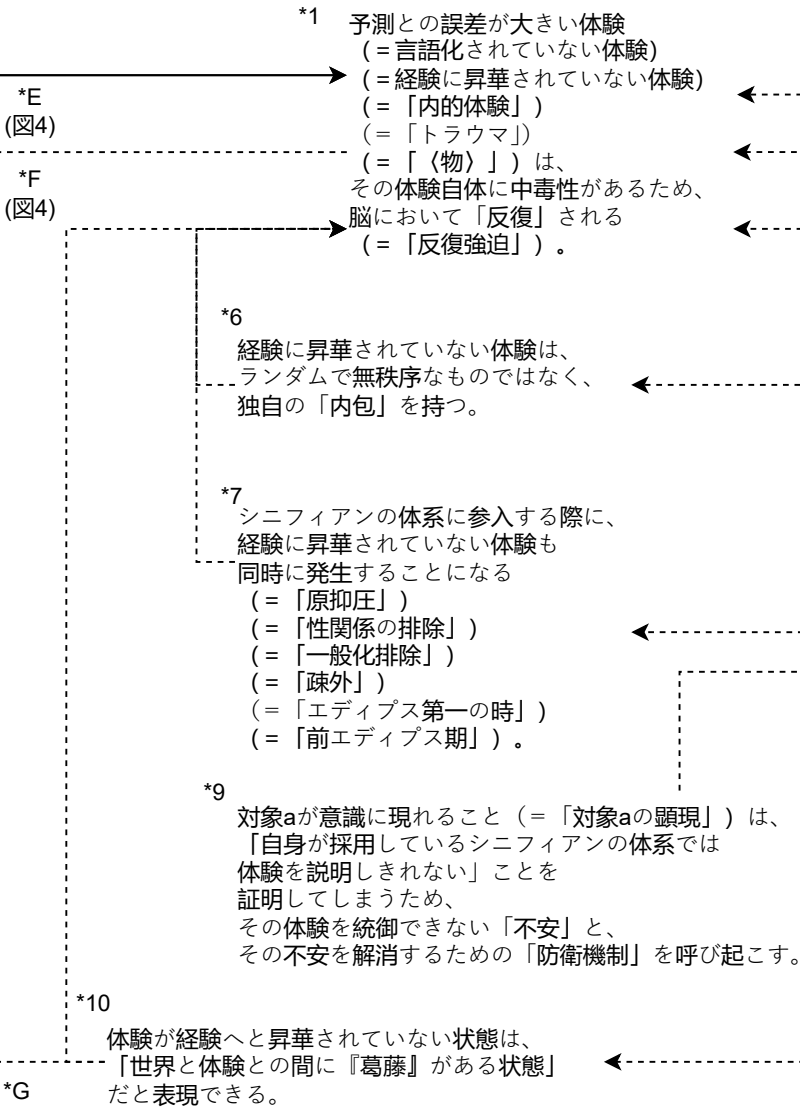


図5：対象aと欲動の主体



\*2 予測との誤差が大きい体験を  
予測できるようにしようとする機制を  
「欲動」と呼ぶ。

\*4  
トラウマ的体験は、  
「享樂」をもたらす。

\*5  
予測誤差を体験したとき、  
概念に収まりきらない  
「存在」を人は感じる。

\*8 原抑圧により生じる、  
独自の内包を持った反復強迫する体験が、  
「対象a」（＝「〈物〉の断片」）である。

\*12  
主体による欲動に対する防衛は  
速やかに行われる。

\*11  
対象aの顕現は、  
「大他者の非一貫性（＝ $\mathcal{A}$ ）」  
（＝「象徴界の穴」）を露呈させる。

\*13  
「葛藤」を解消する行為を  
行うものを  
「主体」と呼ぶ。

\*14  
葛藤の解消と、  
主体の行為と、  
対象aの顕現に対する防衛とは、  
等価である。

\*K (結節点1)